

寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。
(匿名希望を除く。50音順、2024年11月末現在)
この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

中野 貴司 様
八木 孝雄 様
一般社団法人生産技術振興協会

編集委員のページ



山田 絵里(やまだ えり)

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 特任研究員

看護師として病院等で勤務した後、2008年に渡豪。2015年大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程を修了後、大阪大学医学部附属病院国際医療センターにて国際医療コーディネーターとして勤務。大学教員を経て、2021年より現職。

多文化共生社会とは

ようやく秋の気配を感じるようになってきた11月、大阪大学中之島センターで開催された第8回国際臨床医学会学術集会に参加しました。国を超えて人々が行き来する機会が再び増加し、日本で生活する人々の背景も多様化する中で、医療の現場においてもその状況に応じて臨機応変に対応する柔軟性が求められます。シンポジウムでは様々な背景を持つ患者と医療従事者や医療通訳者、渡航支援企業や医療施設間の調整を行う「国際医療コーディネーター」をテーマにディスカッションを行い、外国人診療の現状から、個々のケースに求められる多種多様な対応と、それに応えようと奮闘する現場の実情や思いについて共有することができました。

来年は大阪・関西万博が開催されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」、自然界に存在するさまざまないのちの共通性と相違性を認識し、他者への共感を育み、また多様な文化や考えを尊重しあうことによって、ともにこの世界を生きていくことにより、地球規模でのさまざまな課題に対して新たな価値観を生み出し、持続可能な未来を構築する*。多文化共生社会において、自分にできることは何か。日々の生活の中で、その人らしさを尊重し、支え合って生きていくことができる、そんな世界の実現を願いながら、いまできることを積み重ねていきたいと、改めて強く思う機会となりました。

*参考 <https://www.expo2025.or.jp/overview/philosophy/>